

防災気象情報 残る難解さ

市民に行動判断難しく



大雨の影響で冠水した千葉市内の道路。8月14日未明

河川氾濫				大雨		土砂災害		高潮		住民が 取るべき行動	
警戒レベル 5相当		▶レベル5 氾濫 特別警報	▶レベル5 大雨 特別警報	▶レベル5 土砂災害 特別警報	▶レベル5 高潮 特別警報	命の危険 直ちに安全確保!					
レベル4までに避難を											
警戒レベル 4相当		▶レベル4 氾濫 危険警報	▶レベル4 大雨 危険警報	▶レベル4 土砂災害 危険警報	▶レベル4 高潮 危険警報	危険な場所から 全員避難					
警戒レベル 3相当		▶レベル3 氾濫警報	▶レベル3 大雨警報	▶レベル3 土砂災害 警報	▶レベル3 高潮警報	避難に時間を要す る人は早めに避難、 避難の準備など					
警戒レベル2		▶レベル2 氾濫 注意報	▶レベル2 大雨 注意報	▶レベル2 土砂災害 注意報	▶レベル2 高潮 注意報	避難行動を確認 (避難場所や避難 ルート、避難のタ イミングなど)					
警戒レベル1		早期注意情報				災害への心構えを 高める					

問われる真の国土強靱化

また調整すればいい」と考えて、不完全なシステムを採用していたら、いつまでたっても国民には根付かないだろう。

市井の人たちの命を守る行政サイドに問われるのは、情報発信をはじめとしたソフト面だけではない。防災に関連した施設などのハード面もだ。

難点があらわになった一例が、大阪市。6月下旬の台風7号に伴う大雨で、浸水被害のリスクが高い地域の排水を担ってきた大型ポンプ6基が浸水被害によって故障した。ポンプはこれまで、市南東部の下水処理量を越えた分をくみ上げ、大阪湾へ流れ込む川へ排出してきた。

ポンプ6基全てを更新する場合、300億円ほどの費用が必要で、3年ほどかかる見込みだ。現状は複数の小型ポンプでまかなっているが、大型ポンプに比べてくみ上げ量は1%にも満たないという。

前出の広瀬氏は「大阪のポンプ復旧は、国として費用を出さなければダメだ。それでこそ、自治体丸投げ

新たに運用が始まった防災気象情報。一覧表を見ると、整理された感がある。ただ千葉の豪雨の際、テレビで流れた分を耳にするなど、いろいろな地域でいろいろな情報が出たせいか、どこがどんな状況にあるかわかりづらく感じた。命に直結する情報だけに何とかならないだろうか。(柳)

2024.9.3

大阪大の貝戸清之教授(社会基盤工学)は「大型ポンプが復旧するまで、市南東部の水害リスクは高まるだろう」と案ずる。

「なぜポンプの動力部が浸水したのかについては、詳しい検証が必要」と指摘した一方、「全国的に過去にないレベルの災害が発生し、インフラに被害が及ぶ事例が増えている」と続け、「日ごろの防災対策を国民に周知すると同時に、国民の命を守るために被害を受けたインフラの復旧に国が関与するべきだ」と呼びかけた。

訂正 コラムで、大鉄塔の建設が「1977年」とあるのは倒壊した年の誤りでした。

3570 1135	タカト 3684 181	丸 文 1813 175	ミスミ G 3629 149	セゾンHD 1140 110	ゆふぽ 3367 126	丸三証 1280 130	豊地所 3773 168	上組 4844 154	PKSHA 3120 1175	学研HD 1021 120	ワルKH 2856 165	QBNHD 1317 1171	オオバ 1181 174	
317.6 121.3	広瀬HD 554 161	ハルネット 3755 1125	スズケン 5183 148	同1 販売 4842 116	血闘 3300 160	東洋証 720 131	平和不 2394 118	E-7474 2309 134	マネフォ 6175 1112	センリン 910 118	博覧会 137.5 130	オアツ 273 119	学究社 2590 135	
224.5 105.5	70277X 1118 118	日エフ 1594 117	ジェコス 1751 123	幸楽苑 1194 116	横浜FG 162.5 132.5	東海東京 890 128	東通物 3395 197	GMDF 6030 1220	松竹 10590 160	フジコム 391 112	ニッパ 1524 112	MSOL 1562 173	ナック 518 116	
												7711 346	171	タイセキ 3730 160

大雨で冠水した石川県羽咋市の住宅。8月28日、本社へ「まなづる」から



ここ最近、千葉や石川、富山などで記録的豪雨が相次ぎ、民間の気象会社は「千年に1度」「1万年に1度」級といった見立てを示した。深刻な状況が生じるのは一体、なぜなのか。今年は「スーパーエルニーニョ」と呼ばれる現象が起きると言われるが、これと関連があるのか。常識が揺るがされるほどの豪雨の対処法を探った。

(中川紘希、松島京太)

千葉・北陸...

記録的豪雨 相次ぐ

「数百年に1度、数千年に1度」と言いつつ、災害は起きるときは立て続けに起こるんだな。石川県羽咋市でニット生地の製造業を営む山崎香織さん(62)は「こちら特報部」の取材にそう語った。

同市では8月27日の朝方に雨が激しくなった。工場の様子を見に行こうとしたが、周辺の道路は冠水し、近づけなかった。水が引いた午後を確認すると、床上5センチくらいまで浸水した形跡があり、一部の機械は故障、床は泥だらけだった。

元々はニット生地を企画、設計し、提携工場に製作してもらっていた。2024年の能登半島地震で提携工場が倒壊し、経営者が廃業。自社工場を稼働し始めてすぐの被害となった。

「自社工場は川に近く、水害も考えようとしていたところでもた被災だ」

北陸では8月末、相次ぎ豪雨が降った。気象庁は27日に石川・富山県で、30日に福井県で「レベル5大雨特別警報」を発表。24時

間降水量が観測史上最多を更新したのは、石川で2地点、富山で1地点、福井県で5地点あった。各県では住宅の浸水被害が200棟以上に、富山県の担当者は「地盤が緩む所がある。少ない雨でも土砂災害が発生するおそれがあり、警戒を続けている」と話す。

民間気象会社ウェザーニューズは、27日午後1時までの24時間雨量は富山県水見市で354ミリ、羽咋市で337.5ミリとし、「1000年に一度を大きく超える割合でしか発生しない稀な大雨」と発表した。

三重大の立花義裕教授(気象学)は、南からの暖かく湿った空気に着目する。「高気圧と台風18号または熱帯低気圧の合間を縫い、停滞する前線に流れ込み、大雨となった」

北陸の豪雨に先駆け、13日には、千葉県でも豪雨が降った。3千棟以上の浸水被害のほか13人が犠牲に。ウェザーニューズによると、千葉市緑区から市原市東部にかけて24時間の雨量

「千年、1万年に1度」級

温暖化で水蒸気増/スーパーエルニーニョと関係も

は574.2ミリと分析され、「1万年を大きく超える、ほぼ起こり得ない規模の大雨」とした。

立花氏は「日本の南に発生している巨大な渦『モンsoonジャイア』と北側の高気圧の作用で、暖かく湿った空気が関東に流れ込み、冷たい空気とぶつかり積乱雲が発生した」と話す。「地球温暖化で世界中の海面水温が上がっている。海から蒸発した水蒸気量が増え、雨の力を強めている」

「スーパーエルニーニョ」との関係性を語るのが、気象予報士の森田正光氏。ペルー沖などの海面水温が基準値より0.5度以上高い状態が続くのが「エルニーニョ」で、2度以上高くなると「スーパー」を付けて呼ばれている。

森田氏は8月に続いた豪雨について「海水温の変化で、太平洋高気圧の位置が大きくずれた。その縁を回ってくる湿った空気が北陸や関東・東北へ流れ込みやすくなった」と解説する。

温暖化が降雨災害を激甚化させることにも触れ「非常にまれな現象ではあるが、今後も起こりうる」と話した。